

業務用軟弱野菜の刈り取り再生栽培法

農林総合研究センター（園芸研究所）

キーワード：業務用軟弱野菜、コマツナ、ホウレンソウ、刈り取り再生栽培

1 技術の特徴

業務用に利用されるコマツナ、ホウレンソウは、草丈35～40cm以上に生育したものを地上5cm程度の高さで刈り取り収穫されている。品種や播種時期を選ぶことで、刈り取り収穫後、ほ場に残された切り株から新たに株を再生させて複数回収穫することができる。コマツナは2月下旬～4月上旬、8月下旬～10月上旬播種で計2～4回、ホウレンソウでは8月下旬～10月上旬播種で計2回の刈り取り収穫が可能である。刈り取り再生栽培法の普及により、業務用軟弱野菜の低コスト生産が期待される。

2 技術内容

(1) 刈り取り再生栽培法

ア 刈り取り再生栽培法とは、業務用のコマツナ、ホウレンソウ等を、草丈35～40cm程度の時点で地上5cmの位置で刈り取り、切り株から新たに株を再生させて繰り返し収穫する栽培法である。

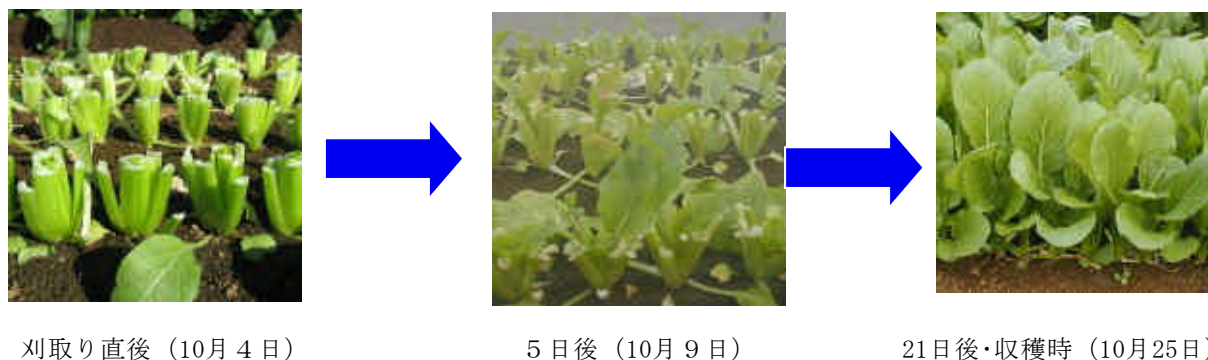
イ 栽植密度は、コマツナ、ホウレンソウともに、条間15cmでは株間5cm、条間20cmでは株間4cmと、家庭消費向けに草丈25cm程度で収穫する栽培法と同じ栽植密度で収量性が高く、草姿も作業性に優れた立性となる。施肥は、三要素等量の化成肥料を、基肥で10aあたり成分量14～15kg、刈り取り収穫直後に10kg程度を追肥するとよいが、緩効性の肥効調節型肥料を基肥として施用することで追肥の手間を省くことも可能である。

(2) 刈り取り再生栽培法の適用播種期および適品種

ア コマツナは、2月下旬～4月上旬播種および8月下旬～10月上旬播種で計2～4回の刈り取り収穫が可能で、再生株の収量性も高い。刈り取り収穫が高温期となる5月～6月播種では軟腐病の発生により株が腐敗するため、また10月下旬以降の播種では、再生株が抽だいするため再生栽培は不可能である。刈り取り再生栽培には、春まき、秋まきともに、再生能力が高く収量の多い「浜美2号」「美味菜」、収量は前記2種より若干少ないが葉色の濃い「みなみ」等が適している。

イ ホウレンソウは、8月下旬～10月上旬播種で計2～3回の刈り取り収穫が可能であるが、3回目の収穫は抽だいにより不安定となりやすい。品種は再生能力に優れる「パレード」「パンドラ」等を用いる。4月上旬～6月中旬播種では、刈り取り後の株の腐敗や抽だい、10月下旬～2月中旬播種では、再生株の抽だいにより再生栽培は困難である。

3 具体的データ



刈り取り直後（10月4日）

5日後（10月9日）

21日後・収穫時（10月25日）

写真 コマツナの刈り取り再生栽培の様子（9月3日播種、品種：浜美2号）

表 コマツナ、ハウレンソウの刈取り再生栽培可能播種期

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
コマツナ	再生栽培可能播種期																							
	○ — 1 — 2 — 3 — 4 — 抽だい — 1 — 2 — 3 — 4 — 腐敗・抽だい — 腐敗																							
	○ — 1 — 2 — 3 — 4 — 抽だい																							
	○ — 1 — 2 — 3 — 4 — 抽だい																							
ハウレンソウ	再生栽培可能播種期																							
	○ — 1 — 2 — 抽だい — 1 — 抽だい — 腐敗																							
	○ — 1 — 2 — 3 — 抽だい — 2 — 抽だい — 1 — 抽だい																							
	○ — 1 — 2 — 3 — 抽だい — 2 — 抽だい																							

注) **■**x: 第x回収穫・障害等無し、**□**x: 抽だい等障害あるが収穫可能、**⊗**x: 収穫不能

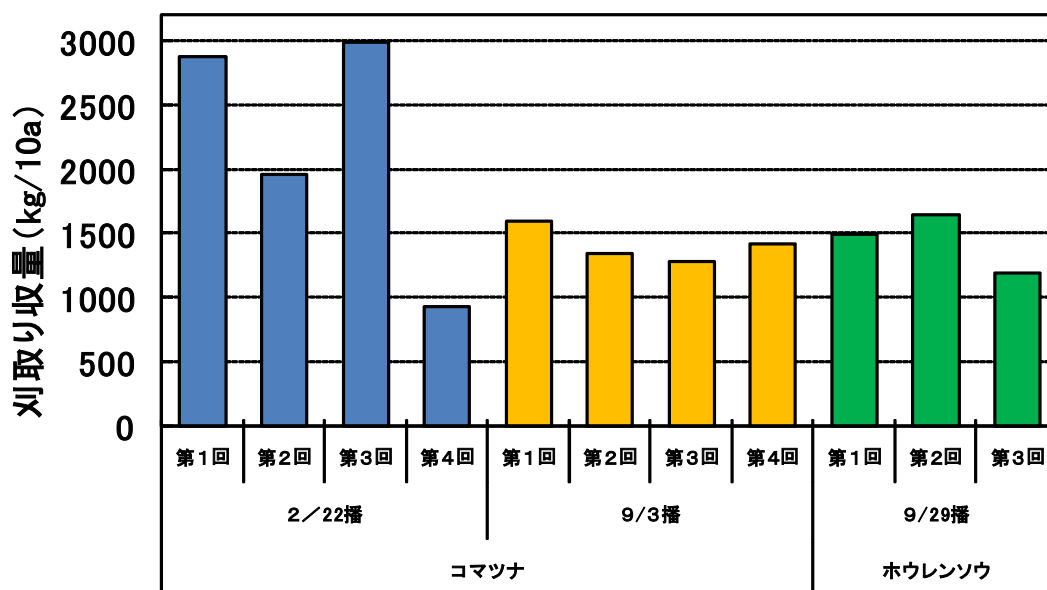


図 コマツナ、ハウレンソウの播種時期と刈取り回数別収量

4 適用地域

県内野菜産地全域

5 普及指導上の留意点

刈り取り再生栽培は栽培期間が長くなるため、春～秋には防虫ネット等の利用により虫害の軽減を図る。また病害虫防除が複数回必要となる場合、農薬散布は使用基準に注意して行う。

6 試験課題名（試験期間）、担当

多回数刈取り法等による業務用軟弱野菜の高品質低コスト生産技術の開発（2006年～2008年度）、露地野菜担当